

令和3年 3月30日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
管理機関名 徳島県教育委員会
代表者名 教育長 榎 浩一

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 徳島県立城西高等学校神山校

学校長名 阿部 隆

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

地域で学び地域と育つ神山校～中山間地の地域内循環モデルの構築～

4 研究開発概要

次の項目を、神山校を中心としたコンソーシアムと連携して取り組む。

- (1) 「神山創造学」の再構築 (2) 地域性を生かした質の高い教育環境の整備
- (3) 地域の生産・交流拠点の創出 (4) 地域を学びの場とした実践

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考（専門分野）
前田 洋一	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授	カリキュラム開発， 学校組織マネジメント等
鎌田 磨人	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授	生態系管理工学等
向井 理恵	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授	食品科学，栄養科学等

松山 隆博	徳島文理大学保健福祉学部 准教授	地理歴史教育, 人権教育等
高田 研	都留文科大学教養学部 特任教授	環境教育学, 人文地理学等
隅田 徹	株式会社 えんがわ 取締役社長	デジタルコンテンツサービス等
大南 信也	認定特定非営利活動法人グリーンバレー 理事	神山町への各支援等
高橋 博義	神山町教育委員会 教育長	
久保 素弘	城西高等学校神山校 学校評議員	農業教育
佐山 哲雄	徳島県教育委員会学校教育課 キャリア・消費者教育担当 室長	キャリア・消費者教育, 高校教育, 理科教育等

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者	
徳島県教育委員会	教育長	榎 浩一
徳島県立城西高等学校神山校	校長	阿部 隆
神山町	町長	後藤 正和
一般社団法人神山つなぐ公社	代表理事	桴谷 学
株式会社フードハブ・プロジェクト	代表取締役社長	林 隆宏
徳島大学	学長	野地 澄晴
鳴門教育大学	学長	山下 一夫
大正大学	学長	高橋 秀裕
株式会社プラット・イーズ	代表取締役会長	隅田 徹
S a n s a n株式会社	代表取締役社長	寺田 親弘
認定特定非営利活動法人グリーンバレー	理事長	中山 竜二
神山町林業活性化協議会	会長	後藤 正和
特定非営利活動法人里山みらい	理事長	佐々木 宗徳
神山町下分保育所	所長	山口 准子
神山町広野保育所	所長	林 美智代
神山町神領小学校	校長	楠 達也
神山町広野小学校	校長	寺奥 幹生
神山町神山中学校	校長	高橋 敬治

8 カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	尾崎 士郎	鳴門教育大学 特命教授	謝礼支払い
	安永 潔	四国大学経営情報学部 准教授	謝礼支払い
	寒川 由美	徳島県教育委員会学校教育課 高校教育担当 指導主事	支払いなし
	中川 望	徳島県教育委員会学校教育課 キャリア・消費者教育担当 指導主事	支払いなし
地域協働学習支援員	森山 円香	一般社団法人神山つなぐ公社 理事・ひとづくり担当	社会人講師として週4時間勤務
	秋山 千草	一般社団法人神山つなぐ公社	社会人講師とし

		ひとつづくり担当	て週 2 時間勤務
	梅田 學	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとつづくり担当	社会人講師として週 4 時間勤務
	樋口 明日香	株式会社フードハブ・プロジェクト食育係	社会人講師として週 4 時間勤務

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)プロジェクトチーム会議※1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(2)カリキュラム開発等専門家会議※2									◎	○		
(3)コンソーシアム会議※3							○			○		
(4)運営指導委員会											○	

※1：事業を効果的に実施するための中核となる組織で，研究開発の内容や進め方，コンソーシアムを構成する各組織との連携方法などについて協議する。

※2：カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員，学校教職員（代表者 6 名）が参加し，カリキュラム開発及びプロジェクトマネジメントに関して協議する。

◎：カリキュラム開発等専門家会議，○：コンソーシアム会議に参加

※3：コンソーシアム構成員，カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員，全学校教職員が参加し，全体会と分科会により効果的な連携についての意見交換や共通理解を図る。

(2) 実績の説明

①管理機関による事業の管理方法

プロジェクトチーム会議等において，事業全般を見通しての指導助言や事業管理，大学連携や研究開発の方向性の提案等を行った。

②コンソーシアムの構成

コンソーシアムは，地元神山町，町内にある公立の保育所，小・中学校，企業，NPO 法人や林業活性化協議会などといった地域の行政・教育・産業の各分野の関係者の他，農業や地方創生を専門とする大学教員，官民協働の神山つなぐ公社やフード・ハブ・プロジェクトから構成している。特に神山つなぐ公社及びフード・ハブ・プロジェクトからは，プロジェクトチーム会議の構成員や地域協働学習実施支援員として本事業に関わった。

③カリキュラム開発等専門家及び地域協働活動実施支援員の配置

- ・カリキュラム開発等専門家として，農業や高校教育の専門の立場として大学教員 2 名，徳島県教育委員会から 2 名を配置した。
- ・地域協働活動実施支援員として，神山つなぐ公社から 3 名，フード・ハブ・プロジェクトから 1 名配置した。

④管理機関による主体的な取組

- ・令和 2 年度は地域協働学習実施支援員全 4 名を社会人講師として雇用した。令和 3 年度も同様に 4 名を雇用予定である。

- ・ 神山校の取組を参考に、徳島県独自に「ふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業」を実施し、地域との協働・連携により高校教育の質の向上や魅力化を進める高校として3校を指定して地域との連携・協働を進める取組を支援した。令和3年度も同様に事業を継続する。
- ・ 現在のコンソーシアムの構成員を中心に学校運営協議会委員に任命し、コミュニティ・スクールとして引き続きコンソーシアムによる地域との連携・協働を進める。
- ・ 地域協働学習実施支援員を引き続き徳島県が社会人講師として雇用する。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目「神山創造学Ⅰ」におけるフィールドワーク			1	3								
学校設定科目「神山創造学Ⅰ」における活動報告				1			1					
学校設定科目「神山創造学Ⅱ」によるプロジェクト活動			1			3	3	3	1			
学校設定科目「神山創造学Ⅱ」による活動報告				2								
科目「課題研究」における造園土木科の活動			5	5	1	5	5	3	1			
科目「課題研究」における生活科の活動			5	5	1	5	5	3	1			
キャリア教育充実における仕事体験					3		2		1			
キャリア教育充実におけるインターンシップ					5							
キャリア教育充実における講話			2	2					1			
他教科等と関連させた指導											2	
基礎学力の強化のための「学びの基礎診断」		1								1		
地域性を生かした「専門人材の配置」			2									
地域性を生かした「スタディツアー」												
地域の生産・交流拠点としての「シードバンク」			4	3			1					
地域の生産・交流拠点としての「校庭マルシェ」								1				
地域を学びの場としての「森林ビジョン」			7		2		1					
地域を学びの場としての「耕作放棄地対策」				1	1	3	3	3	1			
地域を学びの場としての「石積み修復」				1	1	3	3	3	1			

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容

○ 「神山創造学」の再構築

「神山創造学Ⅰ」では、生徒が町内のフィールドワークを通じて、歴史・文化・暮らし・産業などの調査を行った。「神山創造学Ⅱ」では、地域の将来を見据えた施策を行う行政や地元企業と協働して、課題解決に向けたプロジェクト学習に取り組んだ。増設2単位分で、耕作放棄地の有効利用について実施し、石積み修復や地域性種苗の栽培と加工、商品開発に取り組んだ。そして3年次での「課題研究」に発展できるよう、活動内容報告会を年間2回実施した。

○ 地域性を生かした質の高い教育環境の整備

コンソーシアムメンバーの有するネットワークを活用して講師を招聘しキャリア教育における進路選択意識の向上や、ルーブリック・グランドデザイン作成についての考え方を深める講演会や研修を実施した。また、カリキュラム開発等専門家の指導助言を受け、

地域の課題である耕作放棄地の利活用について、将来に向けてのビジョンを考え実行することができた。

○地域の生産・交流拠点の創出

地域性種苗のコムギとソバを栽培し、校内で種を保管できるようになった。また、「校庭マルシェ」開催は本年度開催見送りとなり、代替行事として「道の駅神山」で農産物や花苗の販売、課題研究成果発表と「神山創造学Ⅱ」のチームプロジェクトを実施する場としてイベント「ハーベスト」を実施した。神山校以外にも、城西高校、小松島西勝浦校も参加し合同開催とすることで、来場者も多く、活動発表の機会に恵まれた。

○地域を学びの場とした実践

学校の演習林や、町内の耕作放棄地、町内の石積み修復を学びの場として、教科書や実習で学んだことを生かした様々な取組を実施した。特に耕作放棄地の取組は、「神山創造学Ⅱ」増設2単位分の活動に位置づけて取り組み、コース学習の要となって意欲的に活動する生徒の姿が見られた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

○「神山創造学Ⅰ」（2単位）第1学年対象 ※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員2名，1学年担任2名，地域協働学習実施支援員2名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・「神山創造学」を学ぶにあたって ・地域の現状を学ぶ

・地域の課題解決に向けた取組み ・職業体験プロジェクト

・聞き書きプロジェクト ・調査のまとめと発表

○「神山創造学ⅡA」（4単位）第2学年環境デザインコース対象

※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員2名，2学年担任2名，地域協働学習実施支援員3名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・チームプロジェクト（課題調査，課題解決の実践など）

国際交流，神農祭，神山PR，地域貢献，環境保全の5チーム毎に実施 ・まめのくぼプロジェクト景観創造活動

・プロジェクトのまとめと発表 ・活動報告作成

○「神山創造学ⅡB」（4単位）第2学年食農プロデュースコース対象

※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員2名，2学年担任2名，地域協働学習実施支援員3名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・チームプロジェクト（課題調査，課題解決の実践など）

国際交流，神農祭，神山PR，地域貢献，環境保全の5チーム毎に実施 ・まめのくぼプロジェクト6次産業化活動

・プロジェクトのまとめと発表 ・活動報告作成

○「課題研究」（4単位）第3学年対象

教科「農業」の科目，総合的な学習（探究）の時間の代替科目

指導体制：農業科教員4名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

主な内容：・課題の設定 ・調査・研究・実験・作品製作等 ・中間発表

・課題研究「実践集」原稿作成 ・課題研究発表会

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に連動させ，教科等横断的な学習とする取組

○「フードデザイン」（2単位）第2学年対象 「神山創造学ⅡB」と関連した指導

・食品の素材要素について学習し，作物栽培と生活文化の関連性について考えた。

・地域性種苗の重要性と商品開発の可能性について地域の食品製造企業の方を講師に招き，実際のパンづくりを通して学習した。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

校内カリキュラムチーム（教頭，教務主任，農場長，進路指導主事，地域協働学習実施支援員）を構成し，カリキュラム等専門家会議の前に次年度の教育課程，教員の配置，「神山創造学」から「課題研究」への接続方法等について協議した。また，コンソーシアム会議には本校教員全員が参加し，それぞれが関係している分科会で協議に加わることで，生徒の実態に合わせた地域との協働が推進できるようにしている。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

連携推進事務局は，企画運営担当チーム，大学連携担当チーム，企業連携担当チーム，広報推進担当チーム，経理部の5チームからなり，学校全体として組織的な取組となるように，企画・立案や推進体制について検討を行い，実施に当たっては管理職が各チームの調整や監督を行った。

⑥カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員の学校内における位置付け

○カリキュラム開発等専門家：依頼した日に来校し，オープンスクール等の見学により生徒の実態を把握するとともに，研究開発等について協議する。また，研究開発等について個別に助言を得る。

○地域協働学習実施支援員：社会人講師として雇用し，授業の計画・実施に関わる。職員研修や外部との交渉等も行う。

⑦学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組み

コンソーシアムプロジェクトチーム会議で進捗状況を確認するとともに，年度末には今年度の取組について，生徒や教職員による自己評価と運営指導委員会からの指導・助言及び本校の学校評価委員会（学校評議員，PTA）からの評価を受けた。コンソーシアムを形成する大学・企業・NPO法人・地域の保小中学校からの指導・助言等も踏まえて，次年度に向けての課題を設定し，次年度の計画を修正するなどの改善を行った。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組

今年度はコンソーシアム会議を2回開催し，「まめのくぼプロジェクト」や「キャリア教育」など4分科会を設け，地域とどのような連携・協働が可能か，成果の普及方法など

について協議するとともに、全体会での共通理解を図った。耕作放棄地である「まめのくぼ」の活用方法を中心に、農・林・食に関する今後の方向性や地域との連携に関して様々な立場から意見をいただいた。

⑨運営指導員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援

今年度は2月の1回のみで開催となった。「神山創造学Ⅰ・Ⅱ」、「課題研究」が一連の流れをもって取り組んでいることについて、一定の評価をいただいた。生徒に身に付けさせたい力については、学年のバランスや評価方法に関して再検討が必要であること、また今後の地域との連携の仕方や成果の普及方法などについての助言をいただいた。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組

「神山創造学」では、生徒が町内でのフィールドワークを通して、地域の人との関係性を育み、地域で受け継がれてきた文化、仕事、産業について調査や研究を深め、そして地域の課題に気づき、本人が探究したいテーマを見つけ解決していくことを学んでいる。課題を解決することを一つのきっかけにして、将来の進路決定につないでいく取組になっている。さらに研究開発を進行することにより、地域との連携がより深まると、地域の人に生徒の実践が見えやすくなるとともに、本校の取組に対する地域からの評価を受けて、PDCAサイクルを構築できる。

3年間で地域の人と関わっていくことや、地域内の環境、食農、経済における地域内循環システムを生徒自ら体験することで、地域の担い手として具体的に果たすべき役割を自覚するとともに、学んだことを将来の進路に生かせる機会となっている。

⑪成果の普及方法・実績

○課題研究発表会の開催についてのチラシの作成・地域への配布を行うとともに、課題研究報告集の編集を行った。

※配布先（本校教職員 20 名、本校生徒 85 名、R3 新入生 30 名、発表会参観者 40 名）

○学校ホームページに研究開発の取組内容を掲載し、閲覧者数を伸ばすことができた。

○社団法人神山つなぐ公社主催の「神山つなぐプロジェクト報告会」において研究開発の取組内容や、これまでの町との連携事業の成果を発表し、参加者に理解を得ることができた。

○今年度の研究開発を行った内容を冊子として編集し、関係機関等に配布する。

※配布先（本校教員 20 名、本校生徒 59 名、新入生 30 名、コンソーシアム 18 名、運営指導委員 8 名、カリキュラム開発等専門家 2 名、地域協働学習実施支援員 4 名、地域魅力化型指定校 19 校、県内の公立高校等 45 校、県教育委員会 25 冊）

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定

①本事業に関連する活動での学びを生かして自らの進路を実現する生徒の割合 50%（目標値 50%）

②自分たちの取組が地域貢献につながっていると感じる割合 75%（目標値 80%）

③高校時代を過ごした地域で働いたり暮らしたい、あるいはその地域に将来的に関わりたいと考える生徒の割合 44.4%（目標値 80%）

④ 新入生の体験入学参加者割合 63.3%（目標値 90%）

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標

- ①校庭マルシェ開催回数1回（目標値4回），森林ビジョンと連携した演習林実習の実施回数8回（目標値5回），孫の手プロジェクトにおける石積みの修復に関する依頼を受けた件数0件（目標値2件），石積み実習の実施回数7回（目標値4回），コース研修の実施回数0回（目標値2回）
 - ②研究活動の発表回数3回（目標値10回）
 - ③本構想に関する教員研修の実施回数3回（目標値3回），本構想に関する研究授業の実施回数2回（目標値1回）
- (3) 地域人材を育成する地域としての活動指標
- ①スタディツアーの実施回数0回（目標値2回），コンソーシアム活動回数2回（目標値4回），耕作放棄地対策活動回数24回（目標値10回），生産・保管している在来種・固有種の品種の数37種（目標値40種）
 - ②ホームページでの取組紹介14回（目標値10回）
- 新型コロナウイルス感染症の影響により，校外での活動や校内に講師を招いての研修等が制限され，十分な成果を上げることができなかつた。生徒，職員のみで取り組む活動では，地域の課題解決についてどうすれば良いかを十分に考え実践することができ，意欲的に取り組むことができるようになってきた。

<添付資料> 目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

次年度は学科再編により「地域創生類」として入学した生徒が3年生になり，初めて3学年揃うことになる。2年生までの学校設定科目「神山創造学」から3年生での「課題研究」への効果的な接続を図ること，また生徒に地域の担い手として具体的に果たすべき役割を自覚させ，学校や地域での学びを相互に結びつけて各自が進路実現につなげることができるようにすることが課題である。具体的には，今年度「神山創造学Ⅱ」で取り組んだチームプロジェクトの経験を生かして「課題研究」でのマイプロジェクトに発展させる取組をより進化させていくとともに，事業開始から2年間カリキュラム開発等専門家からの助言やコンソーシアム会議等で協議してきたことを踏まえ，まめのくぼプロジェクトでの耕作放棄地を活用した地域貢献活動，景観保全活動，6次産業化学習で地域と協働した取組を進めていく。

また，今年度職員研修やコンソーシアム会議において生徒に身に付けさせたい力についての共通理解に努めてきたが，生徒に育成する資質・能力とその到達度を共有するためのグランドデザインや3年間を見通したルーブリックの作成までには至らなかつた。次年度はそれらを作成したうえでコンソーシアムとも共有し，生徒の育成目標の明確化と生徒募集での有効活用を図る。さらに，事業終了後を見据え，コンソーシアムとの連携の在り方について協議を行い，コミュニティ・スクールとして学校運営についてのビジョンを共有し協働して活動できる組織作りを進める。

【担当者】

担当課	学校教育課	TEL	088-621-3134
氏名	寒川 由美	FAX	088-621-2882
職名	指導主事	e-mail	kanagwa_yumi_1@pref.tokushima.lg.jp

